



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaiyokai.com

http://yuaiyokai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

下半期事業 順調なスタート

友愛ドイツ歌曲コンクール 中国植林活動訪中計画 要領決定

一次予選から本選会まで奏楽堂で開催 第二十二次アモイ市・第二十二次孝感市

平成二十四年度も半ば近くなり、友愛山荘の運営、機関紙『友愛』の発行を始め順調に事業計画を実施してきている。

下半期からは、友愛ドイツ歌曲コンクールの開催、国際交流活動、植林事業の実施と、大きな事業計画実施を控えている。

この度、友愛ドイツ歌曲コンクールの実施要項(案内チラシ)の作成が済み、九月二十一日からの募集開始を待つばかりとなった。また、日中緑化交流基金に宛て今年度の植林計画要望書の提出も済み、平成二十五年三月に実施予定の植林訪中の日程も決まった。

『友愛』紙面で、これから実施される事業についての詳細をご案内し、各位の事業参加計画の一助としていただきたい。(詳細は日本友愛協会ホームページにも掲載されている)

友愛ドイツ歌曲コンクール

第二十三回を迎える本コンクールは、音楽家の登壇 選を経て本選会には毎年十

門として高い評価を得ている。第一次予選、第二次予選を競う。本選会に出演した参加者は、全て入賞として

て賞状が授与される。

今年度は、第一次予選からすべて旧東京音楽学校奏楽堂で開催される。一次、二次予選は入場無料(要整理券)、本選会はチケットが販売される。(一般二千円・学生千円)

中国植林活動

第二十二次植林訪中予定

植林地 福建省アモイ市同安区

期間 平成二十五年三月五日(火)～三月八日(金)

三泊四日

参加費 一般九万円 学生五万円(予定) 往復航空機運賃・宿泊費用・食事代

福建省アモイ市は、経済特区に指定されている発展した豊かな都市であるが、都市部と山間部の経済格差は大きく、山間部に於ける治水のための植林および環境保護のための植林を行う。また、航空便の都合で広州を経由。広州市内の見学も行う。

第二十二次植林訪中予定

植林地 湖北省孝感市

期間 平成二十五年三月

十四日(木)～三月十七日(日) 三泊四日

参加費 一般十一万円 学生九万円(予定) 往復航空機運賃・宿泊費用・食事代

湖北省は長江がほぼ省内全域を流れる豊かな農村部である。長江の川上には三峡ダムを有し、新しい発展の可能性を秘めている。しかし、長江の氾濫による被害も、未だに制御できていない。そのため、河岸保護、治水のための植林の必要性は高い。孝感市は、全域にわたり古き良き中国の風情を残している街である。航空便の都合で同様に風情豊かな蘇州、無錫の街を見学し、上海より帰途に着く。

ご案内 参加費に関して は、現在予定金額です。詳しくは事務局まで。

計報

深津榮一先生ご逝去

日本友愛青年協会黎明期の立て役者

本財団参与で、永年に亘り理事を務められた深津榮一先生が、平成二十四年八月十八日肺炎によりご逝去されました。享年八十八歳。告別式は八月二十四日町屋斎場において執り行われました。

深津榮一先生は、本財団の前身である財団法人日本友愛青年協会発足当時より理事を務め、公益法人法に基づき本財団の設立、平成二十三年四月一日で参与に就任された。理事在任期間は五十八年に及び、日本友

愛青年協会の黎明期から今日に至るまで、要としての活躍を続けてこられた。その間、機関誌『ゆうあい』の執筆にも精力的にご協力いただいたいき、機関紙『友愛』には、最期まで「友愛時評」の原稿を寄せていただいた。また、友好団体であるオーストリア勤労青年連盟(OJAB)との交流、教育担当役員として、青年たちへ「友愛理解のため」の教育活動など、多岐にわたり活躍された。

日本大学で法学部国際法の教授として活躍され、著書も数多く残されている。



在りし日の深津榮一先生

退官後は日本大学名誉教授となられた。平成十三年春の叙勲で「勲三等瑞宝章」を受章されている。

通夜、告別式には、鳩山邦夫理事長、鳩山由紀夫副理事長、井上和子評議員長、川手正一郎常務理事、武田記念男理事等が参列した。

祭壇には日大総長を始め大学関係の方々、日本友愛協会より鳩山安子名誉会長を始めとする財団関係の方々の方々の生花が供えられ、独特の表情で皆を見守っているかのような深津先生の遺影を囲んでいた。

友愛に於ける教え子、デザイナーの桂由美さん、小川勝也参議院議員、大学での教え子柴田秀一アナウンサーからの生花も供えられ、深津先生のお人柄が偲ばれる一コマであった。

友愛に於ける教え子、デザイナーの桂由美さん、小川勝也参議院議員、大学での教え子柴田秀一アナウンサーからの生花も供えられ、深津先生のお人柄が偲ばれる一コマであった。



旧友OJABシスラー会長と



OJABビンマー専務理事と

友愛時評

ユーロ危機はほれ話(その二)

▼今でこそギリシャの陰に隠れている観もあるが、一九九九年のユーロ導入にあたって、加盟に必要な基準を達成できるか最も危惧されたのはイタリアであった。特に財政赤字をGDP比3%以下に抑えるという点が難題で、どの国も厳しい財政改革を余儀なくされていたが、イタリアは他国のエコノミストでは思いもつかないような奇策を加えて乗り切った。アングラ経済を表に出すことで分母のGDPを劇的に増加させたのである。▼陽気で細かいことにはこだわらず、食と愛で人生を謳歌する――そうしたイメージに合致するイタリア人は確かに多いと感じるが、そればかりでは政治も経済も運営できない。実はイタリアにはテクニチ(technici)と呼ばれる実務家の伝統があり、その能力と志の高さが国を支えてきた。▼そうしたテクニチの中でも傑出した二人の「スーパリー・マリオー」がユーロの最後の砦となっている。マリオー・ドラギ欧州中央銀行総裁とマリオー・モンテイ伊首相である。経済学者である両者の堅実な仕事ぶりがなければ、ユーロ危機は既に臨界点を迎えていたかもしれない。▼日本の消費税増税をめぐる論議では「他山の石」としてギリシヤがよく取り上げられたが、危機の時代に優れた実務家や官僚が支えとなる点でイタリアの方が日本の参考になるかもしれない。モンテイ首相には選挙の洗礼を受けていないという批判も強いが、彼は政治家として正面から緊縮財政の必要性を人々に説く。操り人形のような政治家に政策を囁き有権者に見えない所で国事を決定する狡猾なやり方は、不満のマグマを爆発寸前まで溜めることにもなりかねない。(七ヶ)

特別寄稿

「想定外」で逃げるな

日本友愛協会 理事長 鳩山邦夫

台風の力の違いを実感

ことし九州地方を襲った豪雨と水害は、すさまじいものがあつた。熊本、大分など私の選挙区以外の方が、より大きな被害が出た

六十一年前の記憶

昭和三十八年六月、記録的な集中豪雨が筑後地方を襲い、大河・筑後川の堤防が決壊し、大惨事となつた。

私は五十六歳まで東京に居住して七年前に福岡県久留米市に拠点を設けた。東京から福岡に移って

正子は外国旅行から帰国したばかりであつたが、その大水害のお見舞いのため久留米に帰り、軽井沢の別荘に戻ってから体調をくずし、そのまま亡くなったので、幼な心にも二十八年の久留米大水害は、おそろしい事としてインプットされていった。

しかし、うきは市の長老に会つて話を聞いたところ、「今回は二十八年のときより、よほど激しい雨だった」と、土砂に押し流されて、跡形も無くなった家屋を見つめながら話してくれた。そうだとすると六十年ぶりの大豪雨だったことになる。

二つ目は梅雨期の雨が、シトシトではなくゲリラ豪雨的に激しく降ること、で、南方諸島並みのスコールが



「クリーク」プラス「ポンプ」のインフラ筑後川の下流域ではクリーク（編集部註：人工的水

路）防災というのをやっている。クリークを張りめぐらせ、下流域に流れ込んできた水をクリークに導き、水害を防ぐやり方である。私は総務大臣当時、クリーク防災の国庫補助率をダム並みにカサ上げして、各自治体に喜んでもらった経緯もある。

しかし、今回の想定外の大水は、一部でクリークの水を溢れさせて被害が出た。いわゆる溢水（いっすい）が起きたのである。それをくり返さないためには、排水ポンプを数多く設置して、クリークの水を筑後川本体に上げて流すしかない。

それには大変なおカネがかかるが、必要なインフラは、やはり整備すべきである。兄は「コンクリートから人へ」と言ったが、その大切な人の命と生活を守るためにも充分なコンクリートが必要なのである。経験しながら「想定外」という不思議ここで重要なことを言っておきたい。

先に私は「想定外の大水」と書いたが、少なくとも昭和二十八年の大水害を考えれば「想定内」だったと言わねばなるまい。少なくとも今後は、今回を二割程度上回る大雨も想定内として防災の対策を考えるべきであらう。

何かあると想定外として逃げる姿勢が政治や行政に、しばしば見られるのはよくないことだと思う。かつて原発の設計をしていた人が最近私に語ってくれた。「福島第一原発も、あの程度でいいと行政が言っていたから、そうしたままでだ。もっと厳しい事態を想定して設計しろと言われたら、コストはうんと大きくなるが、東日本大震災と大津波に耐えうるように設計できた。やはり国家の責任ですね」と。

どの程度のことを想定内としておくかは、今後、極めて重要な意味を持つのではあるまいか。『三陸海岸大津波』にみる史実

今から四十年以上も前、吉村昭氏が『三陸海岸大津波』という本を上梓している。もちろん私は、この本の存在を東日本大震災後に知ったのだが、吉村氏のこの著作は、又、いつか必ず襲ってくる大津波に対し、

十分な備えをしておくべきという警告の書だったのである。それはノストラダムスの大予言とは異なり、有史以来、なぜか三陸海岸に集中して襲来する大津波の数々を、ノンフィクションとしてまとめた、極めて実証的な著作である。

それによれば、明治二十九年と昭和八年、そしてチリ地震津波が克明に記されており、特に明治二十九年の大津波は、地域によれば津波の高さが五十メートルに達し、現在より、はるかに人口密度が低かったにもかかわらず二万七千人の方々が亡くなっている。おそらく津波の大きさは東日

本大震災並みか、それ以上のものであつたと思われる。明治二十九年と昭和八年の両津波に加え、チリ地震津波も体験し、何とか生き延びた吉村氏が、「もう、この地域には住めぬ。高台に移るしかない」という趣旨のことを述べている。

国を挙げて取り組むべき事それなのに政府やマスコミは東日本大震災を称して「千年に一度の天災」といつている。国も自治体も電力会社も、千年に一度あるかないかの事態であるから当然に「想定外」であつて、その備えができていなかったのは仕方がないという態度を決め込んでいる。

吉村氏の著書のことを考え合わせてみると、要するに「千年に一度」は明確な誤りで、みな、それをエクスキューズ、つまり言い訳にして逃げようとしていることが明白だ。

これからは防災のためのインフラ整備に国を挙げて取り組むべきだ。これからは「想定外」という言い訳は一切しないと決意して政界、官界、自治体、経済界、電力会社が全力を尽くしていくことが必要である。北部九州豪雨の被災地をめぐりながら、心の中に凝固した結論が、これである。

衆議院議員 鳩山邦夫

第十回けん玉ペインティングコンテスト表彰式

日本友愛協会賞 牧野美優さん受賞

三七〇〇点の中から選ばれた二〇〇作品を展示

平成二十四年八月二十六日（日）東京池袋のサンシヤインシティ噴水広場に於いて、第十回けん玉ペインティングコンテストの表彰式が行われた。

今回は第十回記念ということから、例年の二十名に十名加えた三十名が受賞し、夏休みの最後の日曜日、晴れの式典に集合した。

約三七〇〇通の図画による応募の中から第一次審査を通過した二〇〇作品が全国から寄せられた。



日本友愛協会賞受賞作品（中央）



牧野美優さんと川手常務理事



挨拶に立つ奥住壽実行委員長



各自の作品が印刷された賞状

式典の最後に、奥住壽けん玉ペインティングコンテスト実行委員長（けん玉協会理事日本友愛協会監事）が挨拶で「毎年素晴らしい作品が寄せられて嬉しい限りです。歴代の作品も飾られているので、どうぞ楽しんで行ってください。次回の応募もお待ちしております」と述べた。日本けん玉協会 / <http://www.kendama.or.jp>

今回文部科学大臣賞に選ばれたのは、小学校二年生の岡本有爽さんが仕上げた、アゲハチョウの一生をモチーフにデザインした作品。持てない程大きなけん玉の文部科学大臣杯を手にした。

日本友愛協会賞を受賞したのは、東京に住む小学校一年生の牧野美優さん。自分の作品が印刷された賞状を手嬉しそうに笑顔を家族に向けていた。

日本友愛協会から、川手正一郎常務理事が出席、日本友愛協会賞個人一名、団体十八団体に賞状授与を行った。

特別寄稿

官邸前デモ参加の真意

日本友愛協会 副理事長 鳩山由紀夫

総理をやったものともあるう者が、官邸前のデモに参加するなんてとんでもない。私が七月二〇日、恒例の金曜日の夕刻に行われている国会周辺での原発再稼働反対集会に顔を出した時の、大手メディアの大方の反応はそんな批判記事ばかりでした。

大手メディアは私が政権交代で打ち破ろうとした既得権そのものです。私は総理時代に、報道をもっと公正なものにしたいと、全ての人が官邸の記者会見に来られるようにしましたが、それが大手メディアの逆鱗に触れたようです。それ以来、大手メディアは私に関する好意的な記事は殆ど書かなくなりました。しかし、かつて日本が歪んだ報道によって戦争に突入していき、大本営発表を信頼して多くの命を失う結果となったように、報道の既得権を

打破し、歪んだ報道を正さない限り、この国の将来が間違った方向に誘導されていくようで非常に心配です。

福島原発事故に関して、大手メディアが既得権側を擁護する立場から報道したことは致命的なことでありました。東電や保安院の隠ぺい工作を暴こうとせず、事実を伝えようとする者に対して、報道から外したり、徒に不安を掻き立てるなど言わんばかりの姿勢を取りました。私は事故直後から、メルトダウンが起きている可能性が高いと、最悪の状況を想定した行動が必要とチームを作って作業をしていましたが、まず一切無視され続けました。ただ、海外では評価され、雑誌『Nature』に論文が掲載されました。諸外国は原発事故に関する日本の報道を全く信用していません。

また、大手メディアは冷温停止状態という言葉に鵜のみにし、あたかも事故は収束したかのような錯覚を国民に与えました。原発事故は未だに収束していないにも拘わらずです。出来もしない工程表に従って、さ

も事故対策は順調に行われているかのような印象を与えました。ところが、事故の原因すら特定できていないのが実情です。政府や東電としては、事故は地震に耐えたが津波にやられたと結論付けたいのですが、国会事故調の調査によって、地震によっても破損が生じて事故になった可能性が高いことが明らかになり、漸く真相が見えるようになってきたばかりです。

原発事故の原因さえ完全に把握できていない段階で、止まっていた原発を、安全が確認されたと称して再稼働すると言うのは、いくらなんでも時期尚早です。私は今すぐ全ての原発を動かすなど主張しているのではありません。現実には、ベトナムへは日本の優れた原発技術の売り込みに行きました。しかし、地震王国の日本では、地震による損傷の可能性をもっと深刻に調査すべきです。活断層の存在が疑われているならばなおさらです。

そのことを伝えるために、官邸前の再稼働反対の集会に顔を出した次第です。彼らの多くは、イデオロ

ギーの偏った人たちではなく、普通の市民のみなさんでした。彼らは、今の政治に対する胡散臭さを、原発再稼働反対という一つの主張を通じて晴らすと、ネットによって集まってきた人々でした。

私は彼らに、「自分も経験して反省しているが、官邸に入ると厚い壁があり、みなさんの声がなかなか伝わらなくなる。みなさんの声を官邸が聞くように努力したい」と話しました。そして官邸に赴き、藤村官房長官に、野田総理が早急に彼らの意見を聞いた方がよいと進言しました。

その後、野田総理は早い時期に彼らと会うつもりと述べましたが、この原稿を書いている時点で、未だに面談は実現出来ていません。国民と官邸の距離は私の時よりはるかに遠くなっ

特別寄稿

福島第一原発事故と除染(その1)

慶應義塾大学医学部教授 井上浩義

冒頭、昨年三月十一日に発生した東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、被災された地域の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

め、福島県内の放射能汚染は、事故時の風向きにより地域的な偏りが生じています。除染活動は放射能汚染が大きな地域は「直轄地域」として国が除染を担当し、それ以外の地域は「非直轄地域」として各自自治体が除染を行っています。

現状報告

この未曾有の大震災によって、最悪のレベル7(0.7までの8段階評価/国際原子力事象評価尺度)の原子力事故となった福島第一原発事故は、事故後五〇〇日余経過した今日も、飛散放射性物質を通じて我々の生活に影響を及ぼしています。

私ももはや放射線を専門の一つとしており、事故直後より、南相馬市を中心に除染活動の指導を行い(写真【1】は、道路面での高圧洗浄除染活動の様子)、現在では、岩瀬郡天栄村での農地除染作業指導や環境省との共同による住民向け放射線講習あるいは除染講習会を福島県内各地で行わせて頂いております(写真【2】は、郡山市の老人クラブでの放射線講習会)。

一方、汚染土壌の除去では、除染した地域に再び山間部などの放射性物質が入り込み、放射能の低減効果は五〇%にも満たず、除去土壌の貯蔵・管理の問題も山積みです。

私どもは放射線を専門の一つとしており、事故直後より、南相馬市を中心に除染活動の指導を行い(写真【1】は、道路面での高圧洗浄除染活動の様子)、現在では、岩瀬郡天栄村での農地除染作業指導や環境省との共同による住民向け放射線講習あるいは除染講習会を福島県内各地で行わせて頂いております(写真【2】は、郡山市の老人クラブでの放射線講習会)。

更には、集めた汚染土壌による二次汚染の問題もこれから出てきます。これら二十五年度で数千億円が投入される汚染土壌の除去は自然環境の保全も含めると残念なことに対費用効果が圧倒的に低いと言わざるを得ません。

放射性物質を回収し、一か所に集め、集中管理することを目的とする現在の除染活動は正しく、理想的です。

住み分けて確保する安全性

しかし、今回の福島第一原発事故による放射能汚染は広範囲かつ大量であり、これを実現させてはくれません。人が常時いない場所での土壌剥ぎ取りや森林除染を止め、住み分けと農水産物の汚染管理が国民の被ばくを防ぎ、福島の美しい自

然環境を保全することになると現地での活動を通じて強く感じています。

これらの意見は、朝日新聞の本年五月三日付朝刊「私の視点」でご紹介頂きました。

地味な内容でしたが、賛否共に非常にたくさんの方の反響を頂きました。

現在、報道はあからさまに減っておりますが、三〇年経っても半分の量にしか減らない放射性セシウムやストロンチウムの汚染は、今後長く私たちの生活に係ってきます。我々は今後とも福島の方々と一緒に歩んでいきたいものです。

(慶應義塾大学医学部教授・井上浩義)



冒頭、昨年三月十一日に発生した東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、被災された地域の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

め、福島県内の放射能汚染は、事故時の風向きにより地域的な偏りが生じています。除染活動は放射能汚染が大きな地域は「直轄地域」として国が除染を担当し、それ以外の地域は「非直轄地域」として各自自治体が除染を行っています。

現状報告

この未曾有の大震災によって、最悪のレベル7(0.7までの8段階評価/国際原子力事象評価尺度)の原子力事故となった福島第一原発事故は、事故後五〇〇日余経過した今日も、飛散放射性物質を通じて我々の生活に影響を及ぼしています。

私ももはや放射線を専門の一つとしており、事故直後より、南相馬市を中心に除染活動の指導を行い(写真【1】は、道路面での高圧洗浄除染活動の様子)、現在では、岩瀬郡天栄村での農地除染作業指導や環境省との共同による住民向け放射線講習あるいは除染講習会を福島県内各地で行わせて頂いております(写真【2】は、郡山市の老人クラブでの放射線講習会)。

更には、集めた汚染土壌による二次汚染の問題もこれから出てきます。これら二十五年度で数千億円が投入される汚染土壌の除去は自然環境の保全も含めると残念なことに対費用効果が圧倒的に低いと言わざるを得ません。

放射性物質を回収し、一か所に集め、集中管理することを目的とする現在の除染活動は正しく、理想的です。

住み分けて確保する安全性

しかし、今回の福島第一原発事故による放射能汚染は広範囲かつ大量であり、これを実現させてはくれません。人が常時いない場所での土壌剥ぎ取りや森林除染を止め、住み分けと農水産物の汚染管理が国民の被ばくを防ぎ、福島の美しい自



写真【2】放射線講習会/郡山市内



写真【1】高圧洗浄除染の様子

友愛婦人会だより

これからの活動方針発表
人間塾仲野好重塾長による講演会開催
さらに学び、友愛の実践を目指して

友愛婦人会では、本年度の目標である「さらに学び、友愛の実践を」を具体的な活動とする一環として、先にご講演いただきご好評を博した人間塾・仲野好重塾長をお招きし、三回にわたる講演会を開催することとなりました。

第一回は十月、以降毎月一回の開催を予定しております。参加ご希望の方は、友愛婦人会までお問合せください。

また、十月には恒例の懇親勉強会を「軽井沢友愛山荘」にて開催予定です。

友愛婦人会副会長、種田英子様が、七月十八日永眠されました。享年九十六歳。通夜・告別式は、町屋斎場にて執り行われました。

ご公務多忙の折り、鳩山邦夫先生もご参列くださいました。

祭壇には鳩山安子会長からの生花を始め、日本友愛協会の評議員を務めておられたことから、鳩山邦夫理事長、鳩山由紀夫副理事長、井上和子評議員長、また、鳩山会館川手正一郎館

長からの生花も供えられ、おしゃれでいつも身綺麗にしておられた種田副会長に相応しい、雰囲気でした。お花に囲まれてはかむように微笑む種田副会長の遺影に、婦人会一同、皆でお別れを告げました。



女のジータとの間に生まれたクマラジュウは、両親に似て頭脳明晰で『年少の沙門で字を鳩摩羅というものがいる。オが宏大で高明』と『出三蔵記集』に記されています。彼が七歳の時、母ジータは出家して尼僧になります。

夫であるクマラエンは、最初はジータの出家を許さうとしませんでした。しかしジータは「出家の許可をくれなければ死ぬ」と告げて断食に入り、六日目の夜に今にも息絶えんとする様子を見て、クマラエンは仕方なくジータの出家を許しました。それは夫婦であることをやめるということを意味していました。

母ジータはその時七歳のクマラジュウを仏門に入らせ沙弥（二十歳になる前に仏門に入り修行する者）とし、将来高僧となるための教育に力を注ぎました。九歳になると、母ジータはクマラジュウを伴ってインドへ留学することを決意し、クチャを出てシルクロードを西へ進みます。道中は大変過酷なもので、母子が遭遇したバミール高原は四、五千メートルの山々が連なり、その中腹には山をえぐった険しい道が通じているだけで、人馬が通ると上から落石があり滑り落ちたりして多くの命が絶える難所でした。その一端が母子より六十年後に葱嶺山脈を越えインドへ赴いた僧「法有」の一行二十五名が平地に辿り着いた時には十二名になつていたという『高僧伝三』の記述から伺い知ることが

できます。

やがて母子はシルクロードを南下し、インダス河を渡つてようやくインドのカシミールに辿り着きました。そこで彼はバンズダッタに師事して上座仏教を極めることになりました。

つづく

【著者：大洞龍明】
昭和12年岐阜市生れ。
昭和43年光明寺住職に就任現在に至る。住職執務の傍ら宗派を超えた「東京国際仏教塾」を創立、塾長。「敦煌と日本の友好の会」を設立し、敦厚莫高窟の修復を手がけ七窟の修復を完成させた。写真も筆者撮影。

シルクロードをゆく(三)

母ジータとインド留学

大洞龍明

厳戒態勢の空港
去る七月六日、私は『鳩摩羅什記念館』建設打合せの目的で、中部国際空港から上海浦東空港を経て新疆ウイグル自治区の首都ウルムチへ入りました。ところが上海虹橋空港ウルムチ行きの中国東方航空受付カウ

ンターでちよつとしたアクシデントがありました。私は二年前の交通事故で右足の脛骨高原骨折のため杖を使用しておりますが、受付で「杖は機内に持ち込むことが出来ないことになってるので、受託手荷物として預けてください」と言われました。杖がないと広い

空港内を出入国審査場を経て搭乗口から飛行機まで歩いて辿り着くことは出来ません。「こんなことは初めてですが何故ですか?」と聞きますと「六月二十九日に六人のウイグル人が身障者を装い杖を持って搭乗し、杖を武器にして飛行機の乗っ取りを企てました。

幸いハイジャックは未遂に終わりましたが、身障者の杖の持ち込みはそれ以来禁止されています」との答えでした。

しかたなく車椅子を所望して、空港が準備した車椅子とそれに付き添う人の助けを得てパスポート検査や身体検査・手荷物検査など搭乗者ラウンジに入るまでは、まるで犯罪者を扱うように厳重な検査をくぐり抜けることになりました。事件のとはつちりを受けた形で大変迷惑を蒙りました。

中国における少数民族ウイグル人の抵抗はチベットのそれと同じく厳しいものがあります。

ウイグル自治区は前号でも述べたように、九世紀頃にモンゴル高原で興ったウイグル族がシルクロードの三十六か国にのぼるアリア系のオアシス国家を次々と征服して、ウイグル王国を形成していきました。のちに中国の清朝によって征服支配され、清朝が滅びた

クマラエンと古代キジ国王の記述から伺い知ることが

クマラエンは、両親に似て頭脳明晰で『年少の沙門で字を鳩摩羅というものがいる。オが宏大で高明』と『出三蔵記集』に記されています。彼が七歳の時、母ジータは出家して尼僧になります。

夫であるクマラエンは、最初はジータの出家を許さうとしませんでした。しかしジータは「出家の許可をくれなければ死ぬ」と告げて断食に入り、六日目の夜に今にも息絶えんとする様子を見て、クマラエンは仕方なくジータの出家を許しました。それは夫婦であることをやめるということを意味していました。

母ジータはその時七歳のクマラジュウを仏門に入らせ沙弥（二十歳になる前に仏門に入り修行する者）とし、将来高僧となるための教育に力を注ぎました。九歳になると、母ジータはクマラジュウを伴ってインドへ留学することを決意し、クチャを出てシルクロードを西へ進みます。道中は大変過酷なもので、母子が遭遇したバミール高原は四、五千メートルの山々が連なり、その中腹には山をえぐった険しい道が通じているだけで、人馬が通ると上から落石があり滑り落ちたりして多くの命が絶える難所でした。その一端が母子より六十年後に葱嶺山脈を越えインドへ赴いた僧「法有」の一行二十五名が平地に辿り着いた時には十二名になつていたという『高僧伝三』の記述から伺い知ることが



キジ王府



バザール風景



鳩摩羅什誕生の地 キジ故城壁跡

クマラエンは、両親に似て頭脳明晰で『年少の沙門で字を鳩摩羅というものがいる。オが宏大で高明』と『出三蔵記集』に記されています。彼が七歳の時、母ジータは出家して尼僧になります。

夫であるクマラエンは、最初はジータの出家を許さうとしませんでした。しかしジータは「出家の許可をくれなければ死ぬ」と告げて断食に入り、六日目の夜に今にも息絶えんとする様子を見て、クマラエンは仕方なくジータの出家を許しました。それは夫婦であることをやめるということを意味していました。

クマラエンは、両親に似て頭脳明晰で『年少の沙門で字を鳩摩羅というものがいる。オが宏大で高明』と『出三蔵記集』に記されています。彼が七歳の時、母ジータは出家して尼僧になります。

夫であるクマラエンは、最初はジータの出家を許さうとしませんでした。しかしジータは「出家の許可をくれなければ死ぬ」と告げて断食に入り、六日目の夜に今にも息絶えんとする様子を見て、クマラエンは仕方なくジータの出家を許しました。それは夫婦であることをやめるということを意味していました。

クマラエンは、両親に似て頭脳明晰で『年少の沙門で字を鳩摩羅というものがいる。オが宏大で高明』と『出三蔵記集』に記されています。彼が七歳の時、母ジータは出家して尼僧になります。

夫であるクマラエンは、最初はジータの出家を許さうとしませんでした。しかしジータは「出家の許可をくれなければ死ぬ」と告げて断食に入り、六日目の夜に今にも息絶えんとする様子を見て、クマラエンは仕方なくジータの出家を許しました。それは夫婦であることをやめるということを意味していました。

クマラエンは、両親に似て頭脳明晰で『年少の沙門で字を鳩摩羅というものがいる。オが宏大で高明』と『出三蔵記集』に記されています。彼が七歳の時、母ジータは出家して尼僧になります。

夫であるクマラエンは、最初はジータの出家を許さうとしませんでした。しかしジータは「出家の許可をくれなければ死ぬ」と告げて断食に入り、六日目の夜に今にも息絶えんとする様子を見て、クマラエンは仕方なくジータの出家を許しました。それは夫婦であることをやめるということを意味していました。

クマラエンは、両親に似て頭脳明晰で『年少の沙門で字を鳩摩羅というものがいる。オが宏大で高明』と『出三蔵記集』に記されています。彼が七歳の時、母ジータは出家して尼僧になります。

夫であるクマラエンは、最初はジータの出家を許さうとしませんでした。しかしジータは「出家の許可をくれなければ死ぬ」と告げて断食に入り、六日目の夜に今にも息絶えんとする様子を見て、クマラエンは仕方なくジータの出家を許しました。それは夫婦であることをやめるということを意味していました。

時事川柳

服部迪夫 作

メダルラッシュ
連日のまさかが続く霧の街
銀銅に目を見張る
寝不足もメダルラッシュが解消し
パレード
メダリスト見たさに集う五〇万
新種発見
フクロウの生息かえる録音機
連日の猛暑
予報士の仕事を奪う高気圧
夕立がほしい
涼しさの助っ人がない味気なさ
山本美香さんの死
戦場のカメラとらえる死の彷徨
開示を
東電の無声映画は短編だ

編集後記

◆友愛クラブは、この十二日で五百回の例会を迎えることになりました。友愛はその名称にもありましたように青年の団体であり、青年とは何歳までか、当時の常任幹事会で話し合い、三十五歳が妥当との結論に達しました。そこで、三十五歳以上OBをどう処遇すべきか、会員の意見を集約し、クラブを設立して会員の自由意志で加入し自主運営することになり、昭和四二年（一九六七）八月九日第一回の会合を開催しました。以来、四十五年一ヶ月で五百回の例会となります。この間、若干の曲折はありましたが、皆様の熱意で今日を迎えられますことはご同慶の至りです。六百回が可能かどうかはメンバーの命次第。無窮を祈ります。（K）

◆先日、ニュースで中国系悪徳旅行会社が企画する中国人訪日ツアーの特集を観た。ロクな観光もさせず免税店に連れて行きMADE IN JAPANをウリに法外な価格で健康食品を売りつけるという。結果、中国人旅行者は不満を抱き帰国するそうだ。このような事態は、看過出来ない。観光地としての評価の低下に留まらず、日本製品ひいては日本人への信頼を失うことに繋がるからだ。現在の日本の繁栄が日本人や日本製品への国際的信頼の賜物であることは言うまでもない。観光立国ニッポンを標榜する以上、当局が責任をもって管理するべきである。（GO）

◆この夏は、暑いという言葉は何度口にしただろう。一昨年の猛暑が、それでもマシに思える程だ。日中の温度は締めもつくが、夜になつても温度が下がらない日々が記録的に続くと、流石に息苦しくなる。周りを見ると、通勤電車は満員で、日曜の盛り場も賑わっている。皆元氣だなあ。暑さ寒さも彼岸までに期待。皆様、自愛を！（も）